

高齢者の現状及び今後の動向分析 についての調査 報告書

平成22年12月

内閣府 政策統括官(共生政策担当)

※本調査は、みずほ情報総研(株)に委託して実施したものである。

高齢者の現状及び今後の動向分析についての調査

【調査の概要】

1. 調査の目的

本調査は、多様な生活状況にある高齢者の実態を明らかにすることで、今後の高齢者施策を展開していく上で必要となる基礎資料を得ることを目的に実施した。調査にあたっては、「平成 19 年 国民生活基礎調査」および「平成 20 年度 高齢者の生活実態に関する調査」の 2 種類のデータの特別集計を行った。主な集計事項として、健康状態、経済状態から高齢者を分類し、その出現率を明らかにした。また、各グループに属する高齢者の生活状況等を明らかにした上で、高齢者の社会参加等の状況に着目し、属性による参加状況の違いについて分析を行った。

2. 調査方法

調査は、「平成 19 年 国民生活基礎調査」(厚生労働省大臣官房統計情報部) および「平成 20 年度 内閣府 生活実態調査」(内閣府) の 2 種類のデータを用いて行った。それぞれの調査方法は以下の通りであった。

(1)「平成 19 年 国民生活基礎調査」を用いた分析(第 2 章 掲載)

【分析対象データ】

- ・「平成 19 年 国民生活基礎調査」(世帯票、健康票、所得票、貯蓄票)の特別集計の使用申請を行い、個票データの分析を行った。
- ・調査時期：世帯票、健康票、介護票：平成 19 年 6 月 7 日(木)、所得票、貯蓄票：平成 19 年 7 月 12 日(木)(注：所得については、平成 18 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間の所得を調査した。貯蓄・借入金については、平成 19 年 6 月末日現在の貯蓄額・借入金残高を調査)。

< 集計客体数 >

| | 集計客体数 (集計不能のものを除いた数) |
|-----------|-------------------------|
| 【世帯票・健康票】 | 229,821 世帯 |
| 【所得票・貯蓄票】 | 23,513 世帯 |

【分析項目：グループ別にみた高齢者の生活実態に関する分析】

○属性に関する分析

(世帯票)質問3 性・質問4 出生年月
(世帯票より作成)世帯構造
(世帯票)質問5 配偶者の状況
(世帯票)質問2 同居している子どもの有無、人数
(世帯票)質問17 別居している子どもの有無
(世帯票)質問17-1 別居している子どもの人数
(世帯票)質問17-2 最も近くに住んでいる別居している子どもの居住場所
(世帯票)質問3 住居の種類
(世帯票)世帯の状況質問4 室数及び床面積
(世帯票より作成)地域ブロック、(世帯票より作成)市郡

○生活状況に関する分析

(世帯票)質問5 平成19年5月の家計支出総額
(世帯票)質問5-2 別居の親、子どもへの仕送りの費用の有無、ある場合の目的、費用、
(世帯票)質問2 世帯主と続柄
(所得票)所得の種類
(世帯票)質問6 医療保険の加入状況
(世帯票)質問7 公的年金・恩給の受給状況
(世帯票)質問10 公的年金の加入状況
(世帯票)質問11 平成19年5月の仕事の状況
(世帯票)質問12 一週間の就業日数、就業時間、通勤時間
(世帯票)質問14 仕事の内容(職業分類)
(世帯票)質問15 勤めか自営かの別、勤め先での呼称
(世帯票)質問16 就業希望の有無、質問16-1 希望する就業形態
(世帯票)質問16-2 仕事につけそうか
(世帯票)質問16-3 仕事を探しているか
(世帯票)質問16-4 仕事につけない理由
(所得票)課税の有無、社会保険料の負担(日常生活の状況別)
(世帯票)質問9 手助けや見守りの要否
(世帯票)質問9-1 要介護認定
(世帯票)質問9-2 日常生活自立度
(世帯票)質問9-3 質問9-2の期間
(世帯票)質問9-4 手助けや見守りをしている方の性
(世帯票)質問9-5 同別居の状況
(世帯票)質問9-6 続柄
(健康票)質問3 現在の通院の状況、通院している傷病、最も気になる傷病
(健康票)質問5 日常生活への影響の有無、補問5-1 影響の内容
(健康票)質問8 悩みやストレスの有無
(健康票)補問8-1 悩みやストレスの原因、最も気になる悩みやストレス
(健康票)補問8-2 悩みやストレスの相談相手、最も気になる悩みやストレスの相談相手
(健康票)質問9 過去1ヶ月の精神的健康状態
(健康票)質問10 喫煙の有無、1日の本数
(健康票)質問11 健診等の受診の有無
(健康票)補問11-1 健診を受けた機会
(健康票)質問11-2 健診の結果の指摘の有無、医療機関の受診の勧めの有無、医療機関へ行ったか

(健康票)補問 11-3 健康管理への注意
(健康票)補問 11-4 受けなかった理由
(健康票)質問 12 がん検診の受診状況

【分析項目：高齢者の社会参加等と属性に関する分析】

分析 1：高齢者の社会参加等
① 就業の状況
② 家族の介護の状況
③ 社会保険料の支払い状況
④ 子どもへの仕送りの状況
⑤ 親への仕送り状況
分析 2：健康状態、経済状態
分析 3：精神的健康状態
分析 4：就業状況等
① 仕事の有無、今後の就業希望
② 就業日数、就業時間

(2)「平成 20 年度 高齢者の生活実態に関する調査」(第 3 章掲載)

【分析対象データ】

- ・「平成 20 年度 高齢者の生活実態に関する調査」の個票データを用いた
- ・全国 60 歳以上男女を無作為抽出し 5,000 人を対象に調査
- ・調査時期：平成 21 年 2 月
- ・有効回収数：3,398 件

【分析項目：グループ別にみた高齢者の生活実態に関する分析】

○グループ別構成比
○グループ別の生活状況 (4 区分)
(1) 属性：①性別／②年齢／③婚姻状況／④最終学歴／⑤世帯構成／⑥子どもの有無／⑦孫の有無
(2) 介護認定の申請状況
(3) 家計の状況
(4) 普段の会話の状況
(5) 社会参加の状況：①選挙の投票／②町内会や老人会、婦人会などの地域の活動／③ボランティアや奉仕活動／④趣味やスポーツ／⑤宗教団体やそれに相当するグループでの活動／⑥政党・政治団体などでの活動／⑦友人との付き合い
(6) 病気のときや一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて頼れる人がいるか
(7) 40 歳のときの職業

【分析項目：社会参加等の状況と属性に関する分析】

<従属変数>

Q13 普段どの程度、人（同居の家族を含む）と話をするか（電話、Eメールも含む）

- ・する（毎日、2～3日に1回）
- ・しない（1週間に1回、1週間に1回以下、ほとんど会話をしない）

Q14_1 選挙の投票

Q14_2 町内会や老人会、婦人会などの地域活動

Q14_3 ボランティアや奉仕活動

Q14_4 趣味やスポーツ

Q14_5 宗教団体やそれに相当するグループでの活動

Q14_6 政党・政治団体などでの活動

Q14_7 友人との付き合い（会ったり、手紙や電話のやりとりをしている）

- ・していない（していない、あまりしていない）
- ・している（ときどきする、している）

Q15 病気のとことや、一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて頼れる人がいるか

- ・いる（同居の家族、別居の家族、友人、近所の人、その他）
- ・いない（いない）

<独立変数>

Q1_1 年齢（前期高齢者／後期高齢者）

Q1_2 性別

Q29 世帯構成（独居／夫婦二人／その他）

Q1_3 婚姻の状況（配偶者あり（同居）／配偶者あり（別居）／未婚／死別／離婚）

Q25 最終学歴（新制中学校・旧制小学校／新制高校／旧制中学校・高等女学校・実業高校・師範学校／新制各種専門学校（新制高校（卒業後））／新制短大・高専、旧制高校・専門学校・高等師範学校／新制・旧制大学（4年生）以上／その他）

Q23 40歳の時の職業（民間正社員／公務員などの正社員／契約・派遣・パート等／自営業・自由業／その他／働いていない（主婦、学生、就職活動中等））

Q16 要介護認定の申請状況（自立（申請していない+自立）／受けている（申請中+受けている））

Q5 家計の収支状況（ほぼ毎月赤字／ときどき赤字／ほとんど赤字にならない／まったく赤字にならない）

(3) 高齢者のグループ化

2つの調査の分析にあたっては、高齢者を、健康状態（現在の健康状態）、経済状態（現在の暮らし向き）の2軸から4つのグループに分類し、分析を行った。それぞれのデータで用いた定義は以下の通りであった。

【平成 19 年 国民生活基礎調査】

- 現在の健康状態：良い（よい、まあよい、ふつう）
悪い（あまりよくない、よくない）
- 経済状態：良い（等価可処分所得¹の中央値の 1/2 より大きい値の世帯員）
悪い（等価可処分所得の中央値の 1/2 以下の世帯員）

【平成 20 年度 高齢者の生活実態に関する調査】

- 現在の健康状態：良い（よい、まあよい、ふつう）
悪い（あまりよくない、よくない）
- 生活意識の状況：良い（大変ゆとりがある、ややゆとりがある、ふつう）
悪い（やや苦しい、大変苦しい）

図表 高齢者のグループ化
経済状態

| | | 経済状態 | |
|------|------|---------------------|---------------------|
| | 健康状態 | 健康状態良 × 経済状態悪 | 健康状態良 × 経済状態良 |
| 健康状態 | | 健康状態悪 × 経済状態悪 | 健康状態悪 × 経済状態良 |

¹ 支出は、「固定資産税（事業関係分を除く）」、「企業年金・個人年金等」は分析対象外となっている。

3. 調査結果(概要)

(1)「平成 19 年 国民生活基礎調査」を用いた分析

①グループ別構成比

○在宅生活をしている 60 歳以上高齢者の、健康状態、経済状態別の構成比は以下の通りであった。

| | | 経済状態 | | 合計 |
|------|----|------------------|-----------------|--------|
| | | 良い | 悪い | |
| 健康状態 | 良い | 65.7% 「健良・経良」 | 9.3% 「健良・経悪」 | 75.0% |
| | 悪い | 20.5% 「健悪・経良」 | 4.5% 「健悪・経悪」 | 25.0% |
| 合計 | | 86.2% | 13.8% | 100.0% |

②各グループの属性別構成比の特徴

健康状態、経済状態から、「1. 健良・経良」、「2. 健良・経悪」、「3. 健悪・経良」、「4. 健悪・経悪」の4つにグループ分けを行い、それぞれのグループの特徴について集計を行った。

< 属性等 >

○性別・年齢についてみると、4 グループの中で、健康状態の良いグループである、「1. 健良・経良」、「2. 健良・経悪」の方が、若い年代の高齢者の構成比が高く、反対に健康状態の悪いグループの方が、後期高齢者（75 歳以上）の構成比が高い傾向にあった。健康状態の良いグループの中で、経済状態の差による特徴をみると、経済状態が悪いグループの方が、女性の比率が高くなる傾向にあった。健康状態の悪いグループ「3. 健悪・経良」、「4. 健悪・経悪」についてみると、健康状態の良いグループほどの違いはみられなかった。但し、75 歳以上の女性は、経済状態が悪いグループにおいて比率が高くなる傾向が見られた。

○居住地の人口規模別にみると（大都市、人口 15 万人以上の市、人口 5 から 15 万人の市、人口 5 万人未満の市、郡部）、健康状態が良い、悪いに関わらず、経済状態の良いグループ（「1. 健良・経良」、「3. 健悪・経良」）のが、人口 15 万人以上の市に居住する割合が高くなる傾向にあった。反対に、郡部は、経済状態が悪いグループ（「1. 健良・経悪」、「4. 健悪・経悪」）の割合が高くなる傾向にあった。

- 世帯構成についてみると、健康状態の良い、悪いに関わらず、経済状態の悪いグループ（「1. 健良・経悪」、「4. 健悪・経悪」）で独居者の比率が高くなる傾向がみられた。反面、夫婦二人、その他世帯は、健康状態の良し悪しに関わらず、経済状態の良いグループの構成比が高くなる傾向がみられた。
- 子どもとの同居（同居のみ、同居・別居、別居のみ、子どもなし、不詳）についてみると、健康状態に関わらず、経済状態の良いグループ（「1. 健良・経良」、「3. 健悪・経良」）の方が、子どもと同居している割合が高い傾向にあった。

< 所得、仕送りの状況等 >

- 所得額の平均値は、「1. 健良・経良」360.3万円、「3. 健悪・経良」339.4万円、「2. 健良・経悪」78.5万円、「4. 健悪・経悪」77.0万円となっていた。経済状態が良いグループ間で比較すると、健康状態の悪いグループの方が、平均値が低くなる傾向にあった。
- 別居している子どもへの仕送りの有無については、「3. 健悪・経良」が5.1%で最も高く、「1. 健良・経良」3.8%、「4. 健悪・経悪」2.2%、「2. 健良・経悪」は1.1%の順になっていた。別居している親への仕送りよりも別居する子どもへの仕送りをする割合が高い傾向にあった。
- 租税の負担状況をみると、所得税の金額は、「1. 健良・経良」216.7万円、「2. 健良・経悪」41.4万円、「3. 健悪・経良」156.7万円、「4. 健悪・経悪」32.1万円であった。住民税の金額の合計は、「1. 健良・経良」141.8万円、「2. 健良・経悪」29.1万円、「3. 健悪・経良」103.4万円、「4. 健悪・経悪」19.5万円であった。

< 仕事の状況等 >

- 仕事の状況についてみると、仕事（家事等を含む）をしている割合（「主に仕事をしている」、「主に家事で仕事あり」、「主に通学で仕事あり」）は、「1. 健良・経良」「2. 健良・経悪」「3. 健悪・経良」「4. 健悪・経悪」の順に高くなっており、健康状態が良い方が仕事をしている割合が高くなる傾向にあった。一方で、健康状態が悪い「3. 健悪・経良」「4. 健悪・経悪」においても、それぞれ約15%が仕事をしており、主観的な健康状態が悪くても、仕事に就いている状況が伺われた。
- 現在就業していない高齢者を対象に、就業希望についてみると、「1. 健良・経良」14.7%、「2. 健良・経悪」17.2%、「3. 健悪・経良」15.7%、「4. 健悪・経悪」18.0%であり、健康状態や経済状態に関わらず、いずれもグループにも同程度の割合で就業希望者がいることが伺われた。

<健康・日常生活の状況等>

- 手助けの要否について、手助け有り（手助け有・要介護認定有、手助け有・要介護認定無の合計）の割合は、「1. 健良・経良」約 5%、「3. 健悪・経良」約 7%「2. 健良・経悪」約 23%、「4. 健悪・経悪」約 26%であった。
- 現在の通院状況についてみると、通院者の割合は、「1. 健良・経良」59.2%、「2. 健悪・経良」55.5%「3. 健良・経悪」87.4%、「4. 健悪・経悪」84.2%であった。
- 悩みやストレスの有無についてみると、悩みがあると回答した割合は、「1. 健良・経良」32.8%、「2. 健悪・経良」35.5%「3. 健良・経悪」71.6%、「4. 健悪・経悪」72.2%であり、経済状態が悪いグループで、悩みやストレスが有る割合が高くなる傾向が伺われた。

③就業、家族介護、社会保険料負担等の状況と属性に関する分析

- 本調査では、「平成 19 年 国民生活基礎調査」の特別集計により、社会の支え手として活動している高齢者の属性を明らかにした。具体的には、就業者、家族介護の担い手、社会保険料の負担、親への仕送り、子どもへの仕送りに着目し、その担い手になっている高齢者の属性を分析した。
- その結果、就業している高齢者は、「男性」であり、就業世帯は暮らし向きについて「大変ゆとりがある」と評価している割合が高い傾向にあることが示唆された。一方で、当然ながら「後期高齢者」、「要介護認定を受けている高齢者」は、就業していない傾向にあることが示された。
- 家族介護の担い手になっている高齢者は、「男性」、「要介護認定を受けている」高齢者のオッズ比が低かったことから、主に女性、生活動作等が自立状態にある高齢者が、家族介護の担い手となっていることが示唆された。また、家族介護の担い手になっている高齢者は、「仕事をしている」のオッズが低く、介護の担い手になっていることから、就業できない状況にあることが伺われた。加えて、介護の担い手になっている高齢者の「就業希望あり」のオッズ比は高く、介護を担っているため就業はできないが、就業意欲は高いことが伺われた。なお、介護の担い手になっている高齢者の「ストレス有り」のオッズ比が高いことから、家族介護の精神的負担感が伺われた（「平成 19 年 国民生活基礎調査」の家族介護の担い手は、同居家族の介護をしている場合のみ把握できる点に留意。別居者の介護を担っている高齢者については分析対象となっていない）。
- 社会保険料の負担についてみると、負担している高齢者は、「男性」、「独居」、「後期高齢者」のオッズ比が高い傾向にあった。一方で、「暮らし向きが大変苦しい」高齢者は、社会保険料の負担に対してオッズ比が低いことから、家計の状況が社

会保険料の支払状況に影響を及ぼしていることが伺われた（「平成 19 年 国民生活基礎調査」では、被扶養者の社会保険料は、同一世帯内の世帯員がまとめて負担しているものとして記載されていることに留意）。

- 親への仕送りでは、回答サンプル数が限られているため、参考値ではあるが、「暮らし向きがややゆとりがある」、「仕事あり」、「就業希望あり」、「要介護認定を受けている」高齢者のオッズ比が高くなっている。一方、「後期高齢者」、「独居」、「世帯類型 夫婦二人」はオッズ比が低い。
- 子どもへの仕送りについてみると、「後期高齢者」、「子どもあり」、「孫あり」、「北陸」、「北九州」の高齢者は、オッズ比が高くなっていることが示された。一方、「独居」、「世帯類型 夫婦二人」、「要介護認定有り」、「関東Ⅰ」に該当する高齢者は、オッズ比が低くなっていた。
- さらに、現在仕事に就いていない高齢者の今後の就業希望について分析したところ、「男性」、「暮らし向きが大変苦しい」、「〻 やや苦しい」、「家族介護の担い手である高齢者」、「北海道」、「ストレス有り」の高齢者は、就業希望に対するオッズ比が高いことが示された。一方、「後期高齢者」、居住地が「中国」、「北九州」の高齢者は、就業希望に対するオッズ比が低いことが示された。

(2)「平成 20 年度 高齢者の生活実態に関する調査」を用いた分析

①グループ別構成比

○掲題調査データより、60 歳以上の回答者に占める、健康状態、経済状態別の構成比は以下の通りであった。

n=3,398

| | | 経済状態 | | 合 計 |
|------|-----|------------------|------------------|--------|
| | | ゆとりがある | 苦しい | |
| 健康状態 | 良 い | 59.9% 「健良・経良」 | 16.9% 「健良・経悪」 | 76.8% |
| | 悪 い | 13.8% 「健悪・経良」 | 9.5% 「健悪・経悪」 | 23.2% |
| 合 計 | | 73.6% | 26.4% | 100.0% |

②グループ別の社会参加活動等の実態

- 普段の会話の状況等についてみると、4 区分の中で「健悪・経悪」は、週に 1 回の会話およびほとんど会話をしない割合の合計が 1 割強を占めた。また、同グループの 14%は、2，3 日に 1 回程度の会話レベルであった。
- 選挙の投票をしていない割合は、「健悪・経良」、「健悪・経悪」が、それぞれ 17.1%、17.7%と 2 割弱を占め高い傾向を示した。
- 町内会や老人会、婦人会などの地域活動に参加していない割合は、「健悪・経悪」73.9%、「健悪・経良」63.2%の順に高くなっていた。
- ボランティアや奉仕活動に参加していない割合については、「健悪・経悪」87.3%、「健悪・経良」83.1%の順に高くなっていた。
- 趣味やスポーツを行っていない割合は、「健悪・経悪」69.6%、「健悪・経良」64.7%の順に高くなっていた。
- 宗教団体やそれに相当するグループでの活動に参加していない割合は、健康状態が悪いグループの方が、参加しない割合は高くなる傾向にあるものの、他の社会参加活動等と比較して 4 グループ間で大きな違いはみられなかった。
- 政党・政治団体等での活動に参加していない割合についても、健康状態が悪いグループの方が参加しない割合は高くなる傾向にあるものの、他の社会参加活動等と比較して 4 グループ間で大きな違いはみられなかった。

○友人との付き合い（会ったり、手紙や電話のやりとり）をしていない割合については、「健悪・経悪」32.6%、「健悪・経良」23.3%の順に高くなっていた。但し、他の社会参加活動等と比較して、していない割合は低い傾向にあった。

○病気のときや、一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて頼れる人がいない割合は、「健悪・経悪」9.3%と最も高くなっていた。

③社会参加活動等の状況と属性に関する分析

<全体の分析結果>

○本調査の中で被説明変数として扱った、9種類の社会参加活動等については、「要介護認定（有）」、「家計の状況・ほぼ毎日赤字」が、多くの活動で、負の要因として抽出された。つまり、高齢者は、要介護状態、経済状況が悪い状況にあると、これらの社会参加活動等を行わない傾向にあることが示唆された。このことから、高齢者の社会参加活動等は、「健康状態（ここでは介護の必要性が検証された）」、「経済状態」が、活動に参加するか否かの基盤になっていると考えられた。

○一方で、社会参加活動等の内容によっては、必ずしも「経済状態」が、一定の影響を及ぼしていないことが示唆された。具体的には、選挙、ボランティア・奉仕活動、宗教団体等の活動、政党・政治団体等活動は、「経済状態」が悪くても、負の要因にはならないことが伺われた。

○その他の属性についてみると、「男性」、「40歳時の職業 公務員等」に該当する高齢者は、活動の種類によって違いはあるものの、社会参加活動等に関わる傾向にあることが示唆された。一方で、「婚姻の状況 未婚」、「〃 離婚」、「最終学歴 新制中学校等」、「後期高齢者」、「世帯構成 独居」に該当する高齢者は、社会参加活動等を行わない傾向にあることが示された。

<グループ別の分析結果>

「健良・経良」グループ

○本グループのうち、後期高齢者は、ボランティア・奉仕活動、趣味・スポーツ、友人との付き合いを行わない傾向にあることが示された。

○男性は、頼れる人有りについて負の要因であることが示された。

○経済状態が良い状況にあっても、未婚は、人との会話、町内会等、頼れる人有り、離婚者は、選挙、町内会等、趣味・スポーツといった多くの領域で負の要因にあることが示された。

- 最終学歴が新制中学等の対象者は、人との会話、選挙、町内会等、趣味・スポーツ、友人との付き合いと多くの領域において負の要因であることが示された。
- 本グループは、主観的には健康状態を良いと評価しているが、その中で要介護認定（有）の高齢者は、選挙、町内会等、ボランティア・奉仕活動、趣味・スポーツ、友人との付き合いといった多くの領域で負の要因にあることが示された。

「健良・経悪」グループ

- 「健良・経良」グループの結果と比較することにより、健康状態が良い高齢者の中で、主観的に経済状態が悪いと評価した高齢者の社会参加等の特徴、つまり経済状況が及ぼす影響を推察した。その結果、男性は、経済状態が悪くなると、選挙、町内会等、政党政治団体活動といった、社会参加活動等には関わらなくなる傾向にあることが示唆された。一方、40歳時の職業が公務員であった高齢者は、経済状況が悪くなると、ボランティア・奉仕活動には参加しない傾向にあることが示された。反面、経済状況が悪くとも、町内会等、趣味・スポーツ、友人との付き合いに参加する（行う）傾向にあることが示された。

「健悪・経良」グループ

- 「健良・経良」グループの結果と比較することにより、経済状態が良い高齢者の中で、主観的に健康状態が悪いと評価した高齢者の社会参加等の特徴、つまり健康状態が及ぼす影響を推察した。その結果、全体として、健康状態が悪くなることにより正の要因として抽出される属性が少なくなった。男性は、「健良・経良」で参加する傾向にあった選挙、町内会等、政治政党団体に参加することに対して正の要因とはならなかった。
- 健康状態が悪いと評価した高齢者の中でも、さらに要介護認定（有）該当者は、選挙、町内会等、ボランティア・奉仕活動、趣味・スポーツ、政党政治団体活動、友人との付き合いといった多くの社会参加活動等に参加しない傾向にあることが示された。

「健悪・経悪」グループ

- 「健康状態」、「経済状態」ともに主観的には悪いと評価したグループであり、潜在的には、社会的活動等に関わりにくい高齢者と考えられる。
- 一方で、該当者の内、男性は、町内会等、ボランティア・奉仕活動、趣味・スポーツ、宗教団体等の活動について正の要因であることが示唆された。
- 要介護認定（有）と回答した高齢者は、身の周りのことについて頼れる人がいる傾向にあることが示唆された。

図表 高齢者の社会参加活動等の状況と属性の関係(全体) (●: 正の要因、○負の要因)

| 説明変数 | 年齢 後期高齢者 | 性別 男 | 世帯構成 | | 婚姻の状況 | | | |
|----------|-------------|---------|------|------|---------------|----|----|----|
| | | | 独居 | 夫婦二人 | 配偶者あり (別居) | 未婚 | 死別 | 離婚 |
| 被説明変数 | | | | | | | | |
| 人との会話 | | | ○ | | | ○ | | ○ |
| 選挙 | | ● | ● | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 町内会等 | ○ | | ○ | | | ○ | | |
| ボランティア | | ● | | | | | | ○ |
| 趣味・スポーツ | ○ | | ● | ● | ○ | ○ | | ○ |
| 宗教団体等の活動 | | | | ○ | | | | |
| 政党政治団体活動 | | ● | | | | | ○ | |
| 友人との付き合い | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ |
| 頼れる人の有無 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ |

| 説明変数 | 最終学歴 | | | | 40歳時の職業 | | | | | |
|----------|------------|-----|--------------|-------|-------------|------|----------------|-------------|-----|------------|
| | 新制中学校 等 | その他 | 新制各種専 門学校 | 新制短大等 | 新制・旧制 大学 | 公務員等 | 契約・派遣・ パート等 | 自営業・ 自由業 | その他 | 働いて いない |
| 被説明変数 | | | | | | | | | | |
| 人との会話 | ○ | | ○ | | | | | ● | | |
| 選挙 | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 町内会等 | ○ | | | | | ● | | | | |
| ボランティア | | | | | | ● | | ● | ● | |
| 趣味・スポーツ | ○ | | ○ | | ● | ● | ○ | ○ | | |
| 宗教団体等の活動 | | ● | | | | ● | | | | |
| 政党政治団体活動 | | | | ○ | | | | | | |
| 友人との付き合い | ○ | ○ | | | | ● | | | | |
| 頼れる人の有 | | | | | ● | | | | | |

| 説明変数 | 要介護認定 (有) | 家計の状況 | | |
|----------|--------------|------------|------------|-----------------|
| | | ほぼ毎日 赤字 | ときどき 赤字 | まったく赤字 にならない |
| 被説明変数 | | | | |
| 人との会話 | ○ | ○ | | |
| 選挙 | ○ | | | |
| 町内会等 | ○ | ○ | | |
| ボランティア | ○ | | | ● |
| 趣味・スポーツ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 宗教団体等の活動 | ○ | | | |
| 政党政治団体活動 | ○ | | | |
| 友人との付き合い | ○ | ○ | | |
| 頼れる人の有 | | ○ | | |

図表 高齢者の社会参加等の状況と属性の関係(健良・経良)(: 正の要因、 負の要因)

| 説明変数 被説明変数 | 年齢 後期高齢者 | 性別 男 | 世帯構成 | | 婚姻の状況 | | | |
|---------------|-------------|---------|------|------|---------------|----|----|----|
| | | | 独居 | 夫婦二人 | 配偶者あり (別居) | 未婚 | 死別 | 離婚 |
| 人との会話 | | | ○ | | | ○ | | |
| 選挙 | | ● | | | ○ | | | ○ |
| 町内会等 | | ● | | | | ○ | | ○ |
| ボランティア | ○ | | ○ | | | | | |
| 趣味・スポーツ | ○ | | | ● | | | | ○ |
| 宗教団体等の活動 | | | | | | | | |
| 政党政治団体活動 | | ● | | | | | | |
| 友人との付き合い | ○ | | | | | | | |
| 頼れる人の有無 | | ○ | | | ○ | ○ | | |

| 説明変数 被説明変数 | 最終学歴 | | | | | 40歳時の職業 | | | | |
|---------------|------------|-----|--------------|-------|-------------|---------|----------------|-------------|-----|------------|
| | 新制中学校 等 | その他 | 新制各種専 門学校 | 新制短大等 | 新制・旧制大 学 | 公務員等 | 契約・派遣・ パート等 | 自営業・ 自由業 | その他 | 働いて いない |
| 人との会話 | ○ | | | | | | | | | |
| 選挙 | ○ | | | | | | | | | |
| 町内会等 | ○ | | | | ○ | | | | | |
| ボランティア | | | | | | ● | | ● | | |
| 趣味・スポーツ | ○ | | | | ● | | ○ | ○ | | |
| 宗教団体等の活動 | | | | | | | | | ● | |
| 政党政治団体活動 | | | | | | | | | | |
| 友人との付き合い | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 頼れる人の有 | | | | ○ | | | | | | |

| 説明変数 被説明変数 | 要介護認定 (有) | 家計の状況 | | |
|---------------|--------------|------------|------------|-----------------|
| | | ほぼ毎日 赤字 | ときどき 赤字 | まったく赤字 にならない |
| 人との会話 | | | | |
| 選挙 | ○ | | | |
| 町内会等 | ○ | | | |
| ボランティア | ○ | ○ | | |
| 趣味・スポーツ | ○ | | | ● |
| 宗教団体等の活動 | | | | |
| 政党政治団体活動 | | | | |
| 友人との付き合い | ○ | | | |
| 頼れる人の有 | | | | |

図表 高齢者の社会参加等の状況と属性の関係(健良・経悪)(: 正の要因、 負の要因)

| 説明変数 被説明変数 | 年齢 後期高齢者 | 性別 男 | 世帯構成 | | 婚姻の状況 | | | |
|---------------|-------------|---------|------|------|---------------|----|----|----|
| | | | 独居 | 夫婦二人 | 配偶者あり (別居) | 未婚 | 死別 | 離婚 |
| 人との会話 | | | ○ | | | | | |
| 選挙 | | | ○ | ● | | | | |
| 町内会等 | | | | | | ○ | | ○ |
| ボランティア | ○ | | | | | | | ○ |
| 趣味・スポーツ | | | | | ○ | | | ○ |
| 宗教団体等の活動 | | | | | | | | |
| 政党政治団体活動 | | | | | | | | |
| 友人との付き合い | ○ | ○ | | ● | | | | |
| 頼れる人の有無 | | | ○ | ○ | | ○ | | |

| 説明変数 被説明変数 | 最終学歴 | | | | | 40歳時の職業 | | | | |
|---------------|------------|-----|--------------|-------|-------------|---------|----------------|-------------|-----|------------|
| | 新制中学校 等 | その他 | 新制各種専 門学校 | 新制短大等 | 新制・旧制大 学 | 公務員等 | 契約・派遣・ パート等 | 自営業・ 自由業 | その他 | 働いて いない |
| 人との会話 | | | | | | | | | ○ | |
| 選挙 | ○ | | | ○ | | | | | | |
| 町内会等 | | | | | | ● | | | | |
| ボランティア | | | | | | | | | | |
| 趣味・スポーツ | ○ | | | | | ● | | | | |
| 宗教団体等の活動 | | | | | | | | | | |
| 政党政治団体活動 | | | | | | | | | | |
| 友人との付き合い | | | | | | ● | | | | |
| 頼れる人の有 | | | | | | | | | | |

| 説明変数 被説明変数 | 要介護認定 (有) | 家計の状況 | | |
|---------------|--------------|------------|------------|-----------------|
| | | ほぼ毎日 赤字 | ときどき 赤字 | まったく赤字 にならない |
| 人との会話 | | | ○ | |
| 選挙 | ○ | | | |
| 町内会等 | ○ | | | |
| ボランティア | | | | |
| 趣味・スポーツ | ○ | | | ● |
| 宗教団体等の活動 | | | | |
| 政党政治団体活動 | | | | |
| 友人との付き合い | ○ | | | |
| 頼れる人の有 | | | | |

図表 高齢者の社会参加等の状況と属性の関係(健悪・経良)(: 正の要因、 負の要因)

| 説明変数 被説明変数 | 年齢 後期高齢者 | 性別 男 | 世帯構成 | | 婚姻の状況 | | | |
|---------------|-------------|---------|------|------|---------------|----|----|----|
| | | | 独居 | 夫婦二人 | 配偶者あり (別居) | 未婚 | 死別 | 離婚 |
| 人との会話 | | | ○ | | | | | |
| 選挙 | | | | | | ○ | | |
| 町内会等 | | | | | | | | ○ |
| ボランティア | ○ | | | | | | | |
| 趣味・スポーツ | ○ | | ● | | | | | |
| 宗教団体等の活動 | | | | | | | | |
| 政党政治団体活動 | | | | | | | | |
| 友人との付き合い | | | | | | ○ | | |
| 頼れる人の有無 | | ● | ○ | ○ | | | | |

| 説明変数 被説明変数 | 最終学歴 | | | | | 40歳時の職業 | | | | |
|---------------|------------|-----|--------------|-------|-------------|---------|----------------|-------------|-----|------------|
| | 新制中学校 等 | その他 | 新制各種専 門学校 | 新制短大等 | 新制・旧制大 学 | 公務員等 | 契約・派遣・ パート等 | 自営業・ 自由業 | その他 | 働いて いない |
| 人との会話 | | | | | | | | | | |
| 選挙 | | | | | | | | | | |
| 町内会等 | | | | | | | | | | |
| ボランティア | | | | | | | | | | |
| 趣味・スポーツ | ○ | | ○ | | | | | | | |
| 宗教団体等の活動 | | | | | | | | | | |
| 政党政治団体活動 | | | | | | | | | | |
| 友人との付き合い | | | | | | | | | | |
| 頼れる人の有 | | | | | | | | | | |

| 説明変数 被説明変数 | 要介護認定 (有) | 家計の状況 | | |
|---------------|--------------|------------|------------|-----------------|
| | | ほぼ毎日 赤字 | ときどき 赤字 | まったく赤字 にならない |
| 人との会話 | | | | |
| 選挙 | ○ | | | |
| 町内会等 | ○ | | | |
| ボランティア | ○ | | | |
| 趣味・スポーツ | ○ | | | |
| 宗教団体等の活動 | | | | |
| 政党政治団体活動 | ○ | | | |
| 友人との付き合い | ○ | | | |
| 頼れる人の有 | | | | |

図表 高齢者の社会参加等の状況と属性の関係(健悪・経悪)(○：正の要因、●：負の要因)

| 説明変数 被説明変数 | 年齢 後期高齢者 | 性別 男 | 世帯構成 | | 婚姻の状況 | | | |
|---------------|-------------|---------|------|------|---------------|----|----|----|
| | | | 独居 | 夫婦二人 | 配偶者あり (別居) | 未婚 | 死別 | 離婚 |
| 人との会話 | | | ○ | | | | | |
| 選挙 | | | | | | ○ | | |
| 町内会等 | | ● | | | | | | |
| ボランティア | | ● | | | | | | |
| 趣味・スポーツ | | ● | | | | | | |
| 宗教団体等の活動 | | ● | | | | | | ● |
| 政党政治団体活動 | | | | | | | | |
| 友人との付き合い | ○ | | | ● | | | | |
| 頼れる人の有無 | | | ○ | | | | | |

| 説明変数 被説明変数 | 最終学歴 | | | | 40歳時の職業 | | | | | |
|---------------|------------|-----|--------------|-------|-------------|------|----------------|-------------|-----|------------|
| | 新制中学校 等 | その他 | 新制各種専 門学校 | 新制短大等 | 新制・旧制 大学 | 公務員等 | 契約・派遣・ パート等 | 自営業・ 自由業 | その他 | 働いて いない |
| 人との会話 | | | | | | | | | | |
| 選挙 | | | | | | | | | | ○ |
| 町内会等 | | | | | | | | | ● | |
| ボランティア | | | ● | | | | | | ● | |
| 趣味・スポーツ | ○ | | | | ● | | | | | |
| 宗教団体等の活動 | | | | | | | | | | |
| 政党政治団体活動 | | | | | | | | | | |
| 友人との付き合い | | | | | | | | | | |
| 頼れる人の有 | ○ | | | | | ○ | | | | |

| 説明変数 被説明変数 | 要介護認定 (有) | 家計の状況 | | |
|---------------|--------------|------------|------------|-----------------|
| | | ほぼ毎日 赤字 | ときどき 赤字 | まったく赤字 にならない |
| 人との会話 | | | ● | |
| 選挙 | ○ | | | ● |
| 町内会等 | ○ | | | |
| ボランティア | ○ | | | |
| 趣味・スポーツ | ○ | | | |
| 宗教団体等の活動 | | | | |
| 政党政治団体活動 | | | | |
| 友人との付き合い | ○ | | | |
| 頼れる人の有 | ● | | | |

目 次

| | |
|---------------------------------------|-----|
| 第1章 調査の概要 | 1 |
| I 調査の背景 | 3 |
| II 調査の目的 | 5 |
| 1. 目的 | |
| 2. 分析の視点 | |
| 3. 本報告書の構成 | |
| III 検討体制 | 8 |
| 第2章 「平成19年 国民生活基礎調査」の分析 | 9 |
| I 目的 | 11 |
| II 方法 | 11 |
| 1. 「平成19年 国民生活基礎調査」の概要 | |
| 2. 集計客体および集計項目 | |
| 3. 高齢者の社会参加等と属性に関する分析 | |
| III 結果 | 25 |
| 1. グループ別出現率 | |
| 2. 属性別集計 | |
| 3. 経済状態に関する集計 | |
| 4. 健康状態に関する集計 | |
| 5. 要因分析の結果 | |
| 6. まとめ | |
| 第3章 「平成20年度 高齢者の生活実態に関する調査」の分析 | 119 |
| I 目的 | 121 |
| II 方法 | 121 |
| 1. 「平成20年度 高齢者の生活実態に関する調査」の概要 | |
| 2. 分析項目と方法 | |
| III 結果 | 126 |
| 1. グループ別構成比 | |
| 2. グループ別の生活状況 | |
| 3. 社会参加等の状況と高齢者属性に関する分析結果 | |
| 4. まとめ | |

| | |
|--------------------|-----|
| 第4章 まとめと考察 | 223 |
| Ⅰ 多様な状況にある高齢者 | 225 |
| Ⅱ 社会の支え手としての高齢者の活動 | 226 |
| Ⅲ 高齢者の社会参加 | 228 |
| Ⅳ 課題 | 230 |

第 1 章

調査の概要

I 調査の背景

高齢社会における対応策について、政府の指針をまとめた「高齢社会対策大綱」（高齢社会対策基本法（平成7年法律第129号）第6条の規定に基づき策定）では、目指すべき社会のあり方について以下の3つの姿を示している。

第1は、「国民が生涯にわたって就業その他多様な社会的活動に参加する機会が確保される公正で活力ある社会」、第2に、「国民が生涯にわたって社会を構成する重要な一員として尊重され、地域社会が自立と連帯の精神に立脚して形成される社会」、第3として「国民が生涯にわたって健やかで充実した生活を営むことができる豊かな社会」である。

こうした基本理念を示した上で、同大綱では、「高齢者は、全体としてみると健康で活動的であり、経済的にも豊かになっている。他方、高齢者の姿や状況は、性別、健康状態、経済力、家族構成、住居その他に応じて多様であり、ひとくくりに論ずることはできない。このような高齢者の実態を踏まえ、健康面でも経済面でも恵まれないという旧来の画一的な高齢者像にとらわれることなく、施策の展開を図るものとする」と述べている。つまり、高齢社会対策を講じていく際には、年齢で画一的に高齢者を社会的弱者ととらえ保護するという姿勢にとどまることなく、多様性を考慮した施策展開が必要であることが述べられていると考えられる。

同大綱策定後、高齢者の実態把握を目的に様々な調査研究が行われ、高齢者の就業・所得、健康・福祉、学習・社会参加、生活環境等の分野で多くの知見が蓄積されてきた。

しかしながら、これらの高齢者の生活状況を、健康状態、経済状態を包括的に把握し、それぞれの状況に該当する人数（出現率、構成比）を論じることができる調査研究は限られている。また、高齢者を対象に、社会を支える人材という観点から、生活実態を取りまとめたものは少ない。

こうしたことから、今後の高齢者施策の実施状況や次なる課題を検討する際に必要となる、「高齢者像」を多面的に把握した総合的な調査データが必要であると考えた。

そこで、本調査は、信頼性の高い調査方法に基づき実施され、かつ高齢者の分類と分析を行うに十分なサンプル数を確保している国の統計や調査のデータを用いて、「高齢者像」を包括的に把握するとともに、高齢社会を支える人材という視点からも高齢者をとらえ、高齢者の実態を把握することを目的に調査研究を行うこととした。

具体的には、「平成 19 年 国民生活基礎調査」（厚生労働省）と「平成 20 年度 生活実態に関する調査」（内閣府）のデータを用いた。「平成 19 年 国民生活基礎調査」（厚生労働省）は、高齢者のグループ別構成比を明らかにするとともに、「世帯票」、「所得票」、「健康票」で把握されている詳細な世帯員情報を分析した。また、「平成 20 年度 高齢者の生活実態に関する調査」（内閣府）では、社会参加等の状況について詳細な調査がなされていた。そのため、主に社会参加等の状況と高齢者の属性についての関係性を分析することを目指した。

Ⅱ 調査の目的

1. 目的

本調査は、従来、年齢を基準にひとくくりに捉えられてきた高齢者像について、その多様性を明らかにすることを目指した。具体的には、生活実態から高齢者を分類し、その出現率を明らかにした。その上で、各グループに属する高齢者の生活状況等を明らかにするとともに、高齢者の社会参加等の状況に着目し、属性別の参加状況の違いについて分析を行った。

これらの分析を通じて、多様性を考慮した、高齢者施策を展開していく上での基礎資料を作成することを目的とした。

2. 分析の視点

(1)「高齢者像」を把握する際の主要な構成要素

先行研究より、高齢者像を把握する際の要素として、次の7要素を設定し、分析対象データで把握できる事項を分析した。

- 健康状態（通院・治療の状況、疾患の種類、日常生活の自立度、介護の必要性、主観的健康感）
- 経済状態（所得、貯蓄、主観的な暮らし向きの評価）
- 住環境（自宅の状況 等）
- 家族関係（世帯構造）
- 人間関係（家族、友人、地域とのつながり）
- 社会的活動状況（就労、地域活動、趣味、運動、学習、家族内の活動）
- 主観的な生活満足度

(2)本調査で扱う鍵概念

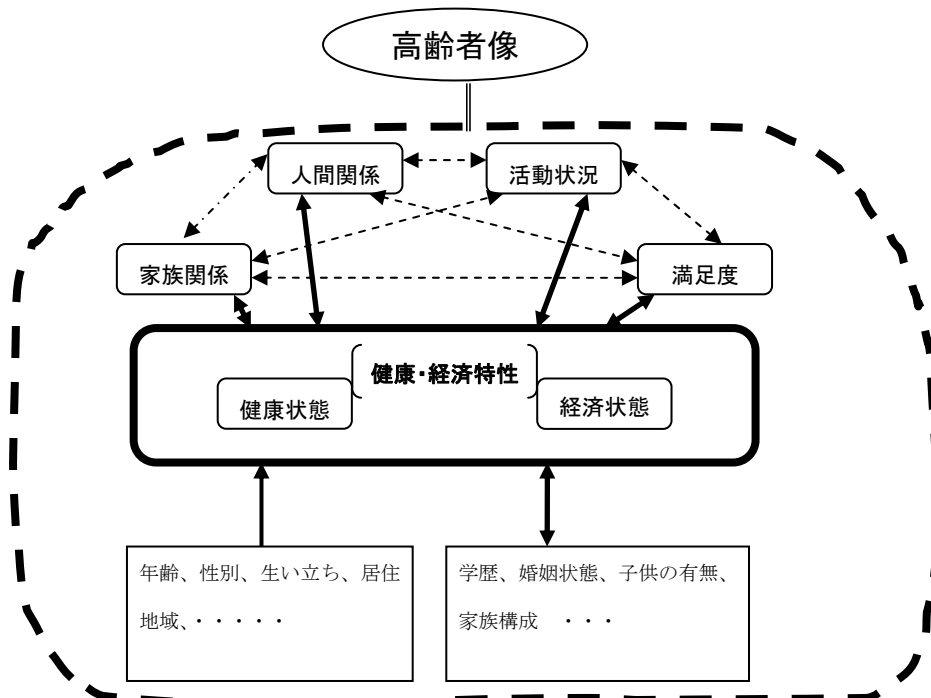
上記の7つの構成要素の中では、特に、「健康状態」、「経済状態」が、高齢者の生活状況を規定する基盤となる要素であると考えられる。実際、家族関係、人間関係、活動状況、満足度に対する影響も大きいと考えられる。

そこで、本調査研究では、「健康状態」、「経済状態」を鍵概念として位置づけ、高齢者像をグループ化した。その上で、各グループに属する高齢者の生活要素についてその実態等を分析した（以下の図表に示した実線部分の相関関係に着目して分析を行った）。

(3)各グループの生活実態の把握

前述の鍵概念を用いて分類したグループ別に、生活実態等の把握を行った。とりわけ、社会参加の状況（町内会活動、ボランティア活動、友人との付き合い等）、就業実態、今後の就業希望については、グループごとに、活動している高齢者としていない高齢者の違いを明らかにすることを目指した。

図表 本調査で扱う鍵概念



図表 高齢者のグループ化の考え方

| | | 経済状態 | |
|------|---------|---------|---------|
| | | 経済状態 悪い | 経済状態 良い |
| 健康状態 | 健康状態 良い | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | ・ | | |
| | 健康状態 悪い | | |

3. 本報告書の構成

本報告書は、4章で構成されている。

第1章（本章）は、調査の背景、目的および高齢者の分類を行った際の視点を説明した。

第2章は、「平成19年 国民生活基礎調査」（厚生労働省大臣官房統計情報部）、第3章では、「平成20年度 高齢者の生活実態に関する調査」（内閣府）の個票を用いた特別集計結果を掲載した。

第4章は、第2章、3章の結果を踏まえ、まとめと考察を示した。

Ⅲ 検討体制

本調査は、株式会社みずほ情報総研に委託し行ったものであり、実施に当たっては、以下の委員から構成される、アドバイザリ・グループを設置し、分析の視点、分析方法等について助言を得た。

図表 アドバイザリ・グループ委員名簿（五十音順、敬称略）

| | |
|---------|--------------------------|
| 阿 部 彩 | 国立社会保障・人口問題研究所国際関係部 第2室長 |
| 島 崎 謙 治 | 政策研究大学院大学 教授 |
| 白波瀬 佐和子 | 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 |
| 安 村 誠 司 | 福島県立医科大学 教授 |
| 山 田 篤 裕 | 慶應義塾大学経済学部 准教授 |

※肩書は調査実施時のもの

●開催日時

第1回 アドバイザリ・グループ 平成21年8月17日（月）

第2回 アドバイザリ・グループ 平成21年10月13日（火）

第3、4回 アドバイザリ・グループ 平成22年3月16日（火）